



現代の日本人は、仕事における幸福度が全世界に比べて低下している。仕事を十全に行うには、充足な休息が必要だ。果たして労働者たちはしっかりとした休息が取れているだろうか。

RIETI(独立行政法人経済産業研究所)のアンケート調査によると、今の仕事に満足している人ほど普段の生活に幸福を感じているようだ。充足な休息を取り万全な状態で仕事に取り組む。そうすると生活が充実するように仕事の熱意と人生満足度は比例する。

このように社会人は仕事をしている時間の割合が一番大きい。このことにより仕事場の休憩室を見直す必要があると考えた。そのためにはライフスタイルを充実させ、繰り返していく日々を送ることが幸せに繋がると私たちは考える。

疲れた心に癒しを。
休憩から仕事へ。
仕事から人生へ。
休憩が幸せの循環を作る。

もし、法改正により屋上のサンルームにおける容積率が緩和されれば既築のビルにもこの休憩室を設けることが可能となる。働く人にとっての幸せは、全社会人にあるべきだろう。こうした家具ユニットとスペースがあれば、日本だけに限らず、全世界で実現できることだと私たちは考えた。

そして、周りにある廃材などを再利用し、未来に繋げていくためにも永遠、無限、終わりのない繋がりを象徴とするメビウスの輪にこの思いを込めた。

「循環」の象徴 メビウスの輪



メビウスの輪とは、帯状の紙を1回ひねって両端を貼り合わせた形のもの。表面を辿るといつの間にか裏面に到達し、さらに辿ると表面になっており、始まりも終わりもない形状になっている。

循環、永遠、無限、終わりのないつながりといった意味の象徴である。ユニバーサルリサイクルシンボルにも使用されている。

ファブリックで織りなす自然のぬくもり、癒しへとつながる空間へ。



使用するファブリック部分をクッションやソファ、カーテンなどの廃材を再使用することも視野に入ると、環境負荷の軽減につながった、サステナブルなライフスタイルの実現にも貢献できる。

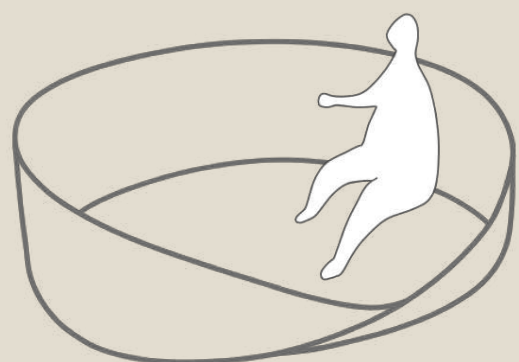


垂れ下がる布を配置することで直射日光を避けることができ、ファブリック同士の隙間から差し込まれる光の具合が木漏れ日のような自然に近い表現になることで安心感の中で休むことが出来るようになる。

メビウスの輪の活用方法

横向きVer.

横の向きに置くことでちょっとした仕切りとなり、圧迫感を与えず、程よいプライバシーを確保することができる。メビウスの輪内部の椅子でちょっとした会話を交わすのも良い。やさしい布に囲まれて、窓の外を眺めるだけでも心が落ち着くのではないだろうか。



横置き 3500×3000×700

縦向きVer.

縦の向きに置くことで、足を伸ばして座ったり、軽く寝そべったりと自身がリラックスできる体制で休憩を取ることができる。ファブリック部分は複数の種類つなぎ合わせ、メビウスの輪内部を回転できるようにすることによって、触感の変化を楽しみつつ、自身の好みの生地でリラックスすることができる。



縦置き 1800×600×1500

